

## 平成29年度ユネスコスクール年次報告書

### 1. 学校概要

学校名 豊中市立第二中学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  中高一貫教育  高等学校  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

所在地 〒560-0056  
大阪府豊中市宮山町2-1-1

E-mail t\_dai2chu@tss.toyonaka-osa.ed.jp

Website \_\_\_\_\_

児童生徒数 男子 250 名 女子 255 名 合計 505 名  
 幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

### 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

### 3. 活動内容

#### (1) 活動の概要

当校は、ESDの基本的な考えを取り入れた「世界的規模の視野を持つ生徒の育成」を目標とした。

具体的には、国際理解・文化多様性、人権平和、環境・防災を柱に、①国際交流を通して、異文化理解の活動 ②国際支援の活動 ③人権平和の学習を行った。

#### ①にかかわる活動

- 【 全校生徒 外国の学校（インドネシアの中学校）との交流 5月 】
  - 事前学習（インドネシアからの留学生のお話を聞く）
  - インドネシアの中学校（ムティアラ・ブンダ中学校）との全校生徒の交流 1時間
    - ⇒民族楽器（アングルン）の演奏披露
    - 二中からは、吹奏楽部の演奏
  - 二年生との交流 1時間
    - ・インドネシアの遊び（ボイボイアン）を通しての交流
    - ・折り紙遊び
    - ・昼食をいっしょに
- 【一年 伝統文化を学ぶ（落語講座） 7月】

○古典落語について学ぶ

小噺体験、クイズなど お囃子など本物に触れる体験

②にかかわる活動

【1年生 総合 ボランティア教育 11月10時間】

・事前学習「ボランティアについて」

・「外国人支援」のグループ

地域のバングラディッシュ出身の方から、バングラディッシュの料理を教えてもらうなどの交流をおこなった。

・「募金活動」のグループ

⇒ネパール大震災支援を続けている二中。ネパール震災募金活動を駅頭でおこなった。

【生徒会活動 餅つき大会等での古着回収 国際物資支援活動】

【校長講話】8月 全校集会にて

・3年目になるネパール大震災支援の集大成として、校長が8月に自らネパールの現地へ飛んだ。始業式後、校長から実際に支援を行っている現地の様子をスライドで紹介、ネパールの震災後の現状と二中から募金と体操着の寄贈をおこなってきたときの様子を報告した。生徒があつめた募金や古着が実際にどのように役立てられているかを視察し、報告した。支援活動が一方通行にならないように生徒へ返していくことは、大いに意義のあることであった。同じ震災を受けた国であるが、日本とのあまりの違いに一生懸命生徒は聞いていた。

【ネパール視察団の二中訪問 12月】

募金活動で支援をしているネパールの団体の方数名が、二中を訪問。生徒と交流した。校長が現地でお世話になった方やネパールでキルトや編み物を制作し、活動されている方も来られ、校長室に飾られている自作のキルトを見つけ、感激された。

③にかかわる学習

【全校生 人権教育・平和教育 国際ジャーナリスト 西谷さんのお話を聞く 11月2時間】

講師の西谷さんは、戦況の悪化しているシリアを中心に中東を訪問。ご本人が出演されたテレビ番組からの映像を見せてもらう。生々しいシーンもあったが、世界の現状と戦争が何をきっかけに起こっているのか、現地の子どもの様子を伝えながら、戦争の悲惨さや平和の尊さを訴えられた。

(2) 活動の詳細

①活動内容

ア. 活動分野（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解・文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダ一平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

### イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予想して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的に、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他（自由記入）	

### ウ. 活動時間（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他（自由記述 土・日の地域やPTA活動などでの活動）	

### エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

特になし

②ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程(指導計画)にどのように位置づけているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。  
(200～300字程度)

担当者の校務分掌としては、人権教育委員会のメンバーから出しており、人権教育委員会の仕事の一つとしての位置づけ。

人権教育・総合学習等の内容を検討するときに、国際理解教育として、又は人権平和教育等 内容によって、担当学年や取り組み内容等を指導計画の中に組み込んでいる。

③学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境を作るため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

②と同じようなことであるが、校務分掌上に担当者を配置している。生徒会の取り組みの一部にも定着。学年ごとの総合の内容に位置づいている。大阪観光局等外部機関とも定期的に情報交流もしており、外国との交流は絶えない。

④ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部・外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

豊中市の国際教育推進協議会にユネスコスクール加盟校の代表として参加している。協議会では、本校の取り組みを紹介したり、ユネスコスクールの意義などを発表し、一定の理解を得ている。豊中市では、平成18年度より豊中型国際教育の推進が進み、その中心的存在がユネスコスクール加盟校である。市内の国際理解教育の研修では、常に加盟校の発表がある。

⑤ESDの推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

④番の内容に加え、本校の校区には、ユネスコスクールの加盟校の小中学校もあり、双方のESDの取り組みを交流している。また、市内の加盟校7校でネットワークを組み、相互の活動について共有している。また、研究会が年に2回程度開かれている。

⑥学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(コミュニティ・大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)(200字程度)

豊中市国際交流協会やとよなか国際交流の会(TIFA)との協働で、講師派遣や体験活動などに幅広く協力していただいている。各団体での取組みにも職員も参加し、連携している。

他市の団体からも共同学習のお誘い等があるが、まだ参加できていない。

⑦国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200 字程度)

豊中市の姉妹都市である、アメリカのカリフォルニア州のサンマテオ市の学校との交流、東北の被災都市である宮城県気仙沼市の松岩中学校とは、6 年間交流を続けている。

市内では、⑤番にあるようにネットワーク研究会をつくり、活動を交流している。

⑧ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば、児童生徒、教員、カリキュラム・教授方、学校経営、地域、保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200 時程度）

ユネスコスクールの活動により、地域の伝統文化の継承を行っている。特に本校区では、地域とのつながりが深く、葉がり、門松づくり、もちつきなど季節感をあらかず行事など地域や PTA を巻き込んだ伝統行事に関する行事が盛んである。

（3）平成 30 年度の活動計画（200～400 字程度）

基本的には、平成 29 年度の活動を継承していく。  
国際理解、異文化理解、外国支援活動、環境問題等に取り組んでいきたい。  
アジアの国々の学校との交流、豊中市市内のユネスコスクールとの協働活動、生徒会を中心として環境問題に関する取り組み、地域 PTA との連携の伝統文化継承等に取り組む。